

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立豎川中学校
校長名	稲垣 吉実

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 3 年生は、過去 3 年間の学力推移で社会科以外は前年度を上回っている。社会科も前年より 0. 1 下回っただけである。 ・ 3 年生は 5 教科 1 0 観点中 7 観点で全国平均正答率との差が +5pt 以上を達成した。 ・ 2、3 年生の数学、英語は、経年比較で前年度を上回っている。 ・ 全学年の英語は 2 観点とも全国平均を +5pt 以上を達成した。 ・ 1 年生の国語、2 年生の英語、3 年生の理科は過去 5 年間で一番よい標準スコアであった	・ 2 年生の社会、理科、1 年生の理科で全国平均正答率を若干下回っている。 ・ 1 年生は、数学が墨田区の平均正答率を下回っている。 ・ 2 年生は、経年比較で国語、社会、理科の 3 教科で、前年度を下回っている。 ・ 2 年生の社会、理科の DE 層が 5 0 % を上回っている。 ・ 2 年生の理科は正答率度数分布を見ると完全に 2 極化を示している。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 1 学年では自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣全ての項目で標準スコアが全国を上回っている。特に先生の支えや感動体験、学習意欲などは +2 P 以上である。 ・ 学級の規範意識は 3 学年とも標準スコアで高いポイントを示しており、学級風土は良好である。学習習慣、生活習慣も 3 学年とも全国値を +2 P 以上である。 ・ 自己肯定感では、「自分なりに自信を持っていることがありますか」と「夢中になった、やる気が出た授業がありますか」の質問で 3 学年とも標準スコアで全国値を上回っている。 ・ 学習習慣・意欲では、「自分で計画を立ててますか」「授業の予習や復習をしていますか」等で 3 学年とも標準スコアで全国値を上回っている。経年比較でも昨年を上回っている。	・ 2, 3 学年では社会性の「発信力」の標準スコアが全国値を下回っている。1 年生も他と比べると低い数値を示している。 ・ 自己肯定感では、「ものごとを行うとき、次に何を行うべきか判断して行動していますか」の質問で 2, 3 学年では標準スコアで全国値を下回っている。 ・ 学習習慣・意欲では、「テストで間違えた問題は後でやり直してますか」「ノートを取り方について、自分なりに工夫していますか」で 2, 3 学年が標準スコアで全国値を下回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 家庭学習ノート（一日 1 ページ以上）の取組を行い、年間パーフェクト賞の表彰等で全学年 8 0 から 9 5 % 以上の提出率を保っている。 ・ 漢字・計算・英文・地理コンテストに向けての家庭学習（家庭学習ノート）が定着し、合格率が向上して「やればできる」という意識が高ま	・ 英検、漢検、数検の 3 級取得。トリプルスリーが 2 1 名から 2 4 名と微増したが、挑戦する生徒をさらに増やし、トリプルスリーの表彰者を増やす。 ・ 校内研修で年 2 回お互いの授業を見合う互見週間を設定しているが、さらに工夫を加え、個

っている。 ・全国学力調査の結果では国語、数学、理科で平均正答率、平均正答数等で全国平均を上回っている。数学は2観点で+5P以上である。 ・全国学力調査結果チャートではICTを活用した学習状況や理科の学習状況、学習習慣で全国平均を大きく上回っている。	別最適な授業の向上に務める。 ・全国学力調査の結果では、国語の【知識・技能】の観点で全国の平均正答率を下回った。 ・全国学力調査の記述式の問題で無回答率が全国を上回っている。 ・全国学力調査結果チャートでは主体的・対話的で深い学びや向社会性が全国より低い。
---	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 毎日の授業を大切にし、今年度は特色ある学校づくり推進校として、校内研修のテーマ「個別最適化に向けての学習法の研究」を実践し授業力向上に務め、授業での振り返り学習の徹底を図る。

- ・毎日の管理職の授業観察を通して、教室環境の整備や授業規律の徹底を図る。
- ・年3回の校内研修で「指導の個別化」と「学習の個性化」に焦点を当て、自由進度型授業など個々の生徒に応じて異なる学習方法で学習を進めること等外部講師を招いての講演会や研究授業や研究討議を実施し、年2回の授業互見習慣でOJTを活性化させ、教員の授業力向上を図る。
- ・「学習ふりかえり期間」に、学習状況調査の正答率が50%未満の問題を中心に過去問や練習問題など年間指導計画に位置づけ振り返り学習を行う。

(2) 特別活動や部活動を通して、自己肯定感を高める取り組みを実践し、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てる。

- ・年2回のi-checkの結果を分析し、社会性や自己肯定感、学習習慣・意欲を上げるための取組を学級・学年での行事や部活動などの諸活動に活かす。
- ・年4回の学習コンテスト(漢字・計算・英文・地理)を通して学習習慣を身に付けさせることで、やれば出来るという自己肯定感の向上を図る。
- ・授業内での協働的な学びにおける、アウトプットの徹底を図り、発信力の向上を図り、自己肯定感の向上につなげる。
- ・すみだ塾として、放課後学習教室や試験前の質問教室などの補習の取り組みを、進路指導部を中心に計画的に実施、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度を養い、家庭学習の必要性や重要性をしっかりと意識させる。

- ・家庭学習ノート(一日1ページ以上)の取組を行い、毎日の点検の徹底や3年間パーフェクト賞や年間パーフェクト賞を表彰して、家庭学習の定着を図る。
- ・単元テストや小テストを行う機会を短いサイクルで設けテストの範囲を家庭学習と連動させる。
- ・学習コンテスト前は、出題される問題を繰り返し学習させることで学習習慣を身に付けさせる。
- ・全校体制で授業の中でICTを有効活用し、「キュービナ」や「ミライシード」「ふりかえりシート」を活用しながら主体的な学習に取り組ませ、学力の定着を図る。
- ・英検・漢検・数検の各3級以上の取得を目指し、合格した生徒にはトリプルスリー賞として表彰する。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全観点の平均正答率を最低でも全国以上にし、さらに+5pt以上の教科を増やす。
- ・学習振り返り期間を意識させ、同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。
- ・個別最適な学びを進め、全教科のDE層を減らし、B層の人数を増やす指導を行う。
- ・授業の中での協働的な学びを重視し、アウトプットを徹底し、社会、理科の学力向上を目指す。